

ドングリ貯蔵穴や石器など多数出土 舟による瀬戸内海交易も

田ノ浦遺跡 調査報告会より

上関町長島の田ノ浦遺跡の発掘調査報告会（山口県埋蔵文化センターと上関町教育委員会主催）が4月25日、四代ひなの里よりあり館と室津の町中央公民館で開かれ、あわせて約90人が縄文前期から平安時代まで幅広い年代にわたる遺構や遺物についての説明に聞き入り、出土品も展示されました。

この遺跡は原発建設予定地にあり、中国電力が同センターに委託して2005（平成17）年から翌年にかけて2000平方メートルを調査しました。今回は昨年1月から今年3月まで、前回の北側部分約1100平方メートルを追加調査したものです。

前回は縄文時代の柱穴や土杭、弥生時代の石棺墓とともに古代の土器、石器など生活道具の遺物約20万点が出土し、組織的な製塩が行われていた可能性も指摘されました。

今回、浜堤近くには縄文、弥生、古墳、古代、

平安など各時代の遺物を含む堆積層が見られ、出土品は約3〜4千年前の縄文後期のものが多くありました。約4〜6千年前の中期の土器片もあり、田ノ浦に人々が住み始めた時期を知る手がかりとして注目されています。



調査報告会の様子

また縄文時代の遺構の土杭のうち、湿地との境の13基はドングリ貯蔵穴と見られ、10基からは十数粒から数百粒の当時のドングリも見つかりました。この時代のドングリ貯蔵穴は、県内では平生町の岩田遺跡に次いで二例目で、当時の食料保管方法についての貴重な資料となるようです。

石器は万能ナイフの石さじ、穴をあけるための石の錐（きり）、ドングリをすりつぶすすり石、魚の時に網につけたと思われる石の錘（おもり）などさまざまな道具が見つかりました。これらの素材には大分県姫島産の黒

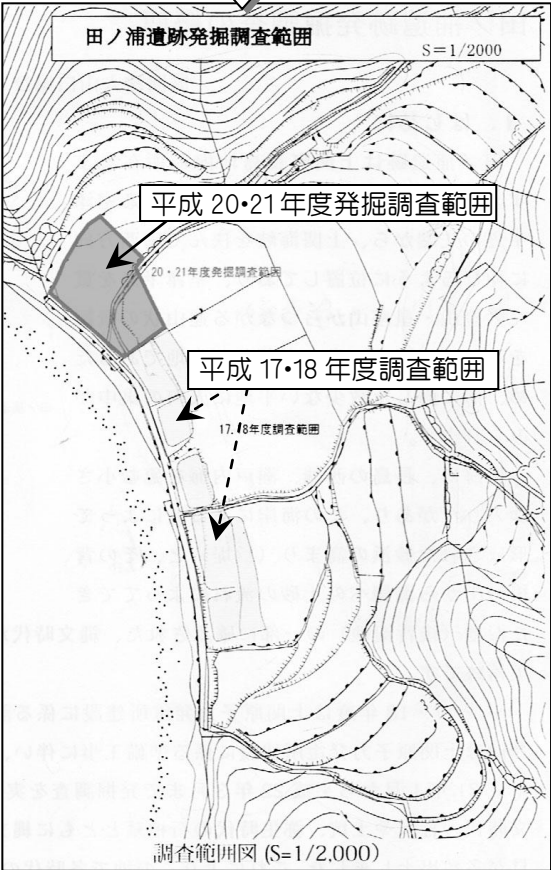
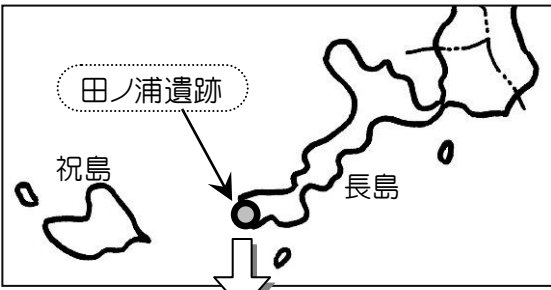
曜石や香川県金山産のサヌカイトなどの安山岩が使われ、原石や製作時にはがれた破片もあったそうです。同センターの谷口哲一文化財専門員は「海の幸、山の幸を生活の基盤にし、舟による交易で他の地域から取り寄せた石を加工していた当時の様子が見えてくる。」と説明されました。

調査結果や出土品の詳細は約1年かけて同センターが報告書にまとめる予定ですが、山口県教育委員会は遺構の保存状態が悪いとして記録保全にとどめる判断をし、遺跡はすでに埋め戻されています。上関町教育委員会も遺跡や出土品の活用については未定としています。山口市から参加した30代の男性は「弥生時代の人骨などが見つかった下関市豊北町の土井ヶ浜遺跡ではミュージアムや弥生まつりなど大規模なイベントで町おこしにつなげている。上関はそれより古い縄文の貴重な遺跡でロマンがある。もっと幅広く調査し、いい活用方法を考えてほしい。」と話されていました。

「新人議員に聞く」シリーズは今回はお休みします。

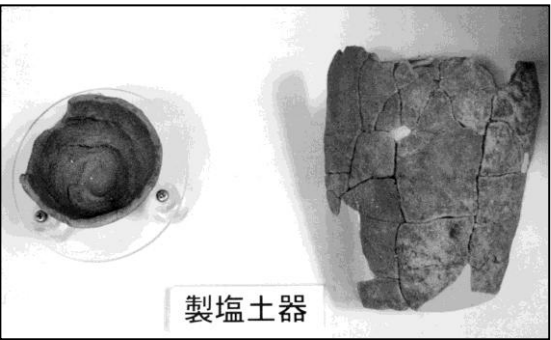


出土した縄文時代のドングリ



縄文時代の石器

※縄文時代に、すでに網を使って漁をしていたと考えられる



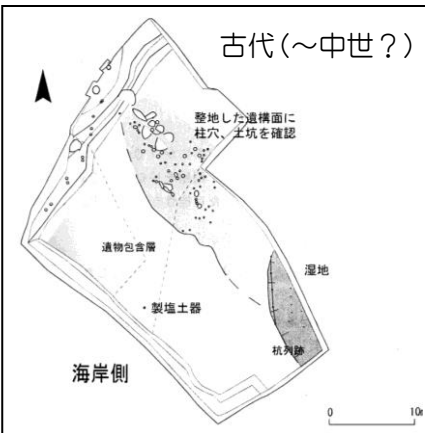
製塩土器

出土した古代の製塩土器

※古代には田ノ浦海岸で塩づくりが行われていたと考えられる



縄文時代



古代（～中世？）

田ノ浦遺跡 各時代遺構配置模式図 (s=1/400)

パソコン出張サポート

パソコンやインターネットの設定作業・トラブル対応など

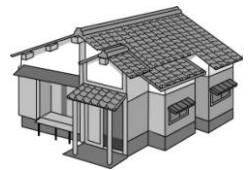


お申込みは

携帯 090-8069-5066
くにひろへ

ハッピーアイランド企画
祝島事務所：上関町祝島 254-1
光事務所：光市虹ヶ浜 3丁目 11-2
<http://www.happy-island.net/>

新築・増改築のご相談承ります



原田工務店

〒742-0034
山口県柳井市余田 2315-5
TEL 090-8715-4842